

令和6年度認定

計画名	世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」文化観光推進地域計画
-----	--------------------------------

①計画目標の達成状況

目標項目名（単位）	R6			R7			R8			R9			R10		
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率
拠点施設への入場者の実数（千人）	170	178	105%	180	186	103%	190		0%	200		0%	200		0
来訪者数の満足度（%）	57.4	53.8	94%	59.4	68.8	116%	61.4		0%	63.4		0%	65.4		0
大田市内観光消費額（億円）	40.7	38.7	95%	45	45.7	102%	49.3		0%	53.6		0%	57.9		0
大田市内外国人観光客入込数（人）	4,000	4,441	111%	4,780	5,319	111%	5,560		0%	6,340		0%	7,120		0

②計画目標の達成状況に関する分析・評価

○拠点施設への入場者の実数（千人） 銀山エリアでは、年間を通して入込が好調であった。R7年3月に山陰道出雲多岐間が開通し、東側からのアクセスが向上したことも起因していると考えられる。また、銀山エリア全体が増加したことから、観光客の動向として歴史や史跡などへの興味の高さが伺える。
○来訪者の満足度（%） 来訪者満足度は目標を上回った。多言語解説の整備やフリーWi-Fi環境、デジタルマップ・多言語パンフレットの提供による情報アクセス・回遊性の向上、龍源寺間歩周辺の魅力化などが、現地での体験価値を高め満足度に寄与したものと考えられる。
○大田市内観光消費額（億円） 観光消費額単価は、宿泊客・日帰り客ともにR6年比で増となった。観光入込客数の増加もあり、観光消費額についてもR6年比で約6.9 億円増加（＋18.0%）した。観光消費額に占める割合が大きい県外客において、「宿泊・県外客」はR6年比で約0.5円増加（＋1.8%）、「日帰り・県外客」はR6年比で約5.4億円増加（＋53.9%）となった。
○大田市内外国人観光客入込数（人） 全国的な需要拡大に伴い増加。中でも大田市での宿泊者数が1,800人を超えており、観光消費額に繋がっている。

③計画

事業番号	事業名	R6	R7	R8	R9	R10	事業類型ごとの実績額
1－①	石見銀山世界遺産センター展示更新事業	展示更新内容の検討	展示更新の実施設計				7.8百万円
1－②	いも代官ミュージアム（石見銀山資料館）展示パネル更新及びデジタルミュージアム構築事業	企画検討	R8、R9年度の企画展にむけて展示更新の企画調整中。デジタルミュージアムは県外イベント等アウトリーチ活動で活用。				
1－③	龍源寺間歩周辺魅力化事業	森林管理フォーラム(12/1) 森林管理ワークショップ(12/18) フィールドワーク(2/26) 森林管理提言書の発刊	「石見銀山の森を考える」フォーラム（8/27・28） 龍源寺間歩周辺環境検討事業（8/25～28）				
1－④	石見銀山学習・体験プログラム開発事業	プログラム内容の検討	プログラム内容の検討				
1－⑤	石見銀山遺跡デジタルマップ作成事業	—	デジタルマップへの古地図追加				
1－⑥	外国語通訳による魅力発信事業	地域おこし協力隊1名配置（令和6年9月～）	地域おこし協力隊1名配置（～令和7年10月）				
2－①	主要観光地間シャトルバス等運行事業	—	観光実態の把握、運行内容などの検討				5.3百万円
2－②	石見銀山及び周辺地域の来訪客を対象とした観光動態調査事業	—	実施				
2－③	石見銀山ポータルサイト構築事業	—	再生古地図（古地図をデジタル化したもの）を作成し、システム上で閲覧可能とした				
3－①	体験・滞在型商品等の造成・販売促進事業	—	石見銀山世界遺産登録20周年・発見500年記念文化観光振興支援補助による助成 R8向け補助制度の検討				
4－①	石見銀山エリア周遊促進事業	—	—				3.0百万円
4－②	大阪・関西万博を契機とした国内外観光客向け情報発信事業	企画検討	大田市観光協会を中心として実施				
5－①	石見銀山世界遺産センター施設改修・設備更新事業	—	空調改修の設計業務を実施				
5－②	史跡重点整備事業（最盛期生産エリア石銀集落跡・本谷地区）	—	本谷地区見学道整備を実施				
各年度ごとの実績額→		0	0				16.1百万円

④事業の進捗状況に関する分析・評価

1－① 石見銀山世界遺産センター展示更新事業、5－④ 石見銀山世界遺産センター施設改修・設備更新事業 令和8年度の展示更新工事に向けて、コーチング及び専門家の視察によって指摘されたガイダンス機能の不足を解消し、来訪者の価値理解・現地来訪の促進を図ることを中核として、展示更新の実施設計を実施した。		
1－② いも代官ミュージアム（石見銀山資料館）展示パネル更新及びデジタルミュージアム構築事業 石見銀山関連資料を3Dスキャンすることによりバーチャル空間で資料の閲覧が出来る「石見銀山デジタルミュージアム」を作成した。作成した「石見銀山デジタルミュージアム」は石見銀山資料館にて常時来館者が閲覧できる状態とするとともに、イベントへの持ち込みにより来場者へ内容の説明を行った。		
1－③ 龍源寺間歩周辺魅力化事業 江戸時代後期に作庭された高橋家庭園について、東京農業大学の学生により復旧作業と測量作業を実施した（龍源寺間歩周辺環境検討事業）。また、その成果について、報告会の開催やリーフレットを作成し、情報発信を行った。（「石見銀山の森を考える」フォーラム）		
1－④ 石見銀山学習・体験プログラム開発事業 指定管理者である（一社）石見銀山みらいコンソーシアムとともに、龍源寺間歩来訪者に向けた体験プログラムの協議・検討を行った。		
1－⑤ 石見銀山遺跡デジタルマップ作成事業 既存のデジタルマップ「まち歩きマップ」（現在の地図に観光情報を掲載したもの）に「再生古地図」を追加したことで、観光客の興味に応じたデジタルマップで町並み散策をしてもらえるようになった。まち歩きマップ利用者の約70%が位置情報を利用しており、石見銀山エリアにおける町並み散策における現在地及び目的地への道順把握に役立っている。		
1－⑥ 外国語通訳による魅力発信事業 令和6年9月1日から令和7年10月31日かけて地域おこし協力隊員を1名配置し、①旅行者に対する外国語及び日本語の活用によるガイド支援、②外国語通訳ガイドの仲間づくり及びスキルアップ講座の企画運営、③外国語通訳ガイドの活動の場の創出と活動内容の広報、④外国語通訳ガイドの組織化及び受け入れ体制の構築について検討を行った。		
2－① 主要観光地間シャトルバス等運行事業 観光消費額を上げるために、どのように宿泊地へ観光客を周遊させるかについて、DMOや地域観光事業者と検討を行った。路線バスなどの既存交通を活かすとともに、三瓶地域では、課題となっているエリア内観光周遊について地域事業者を交え検討した。今後、三瓶地域周遊の課題解決に向けて引き続き協議、実証を行っていく。		
2－② 石見銀山及び周辺地域の来訪客を対象とした観光動態調査事業 山陰道の開通やインバウンド需要の高まりを契機と捉え、この流れを確実に石見銀山に取り込むため、観光客の観光動向やニーズを把握するデータの収集・分析をこれまで以上に細やかに実施した。基礎資料として今後の観光施策に反映させる。		
2－③ 石見銀山ポータルサイト構築事業 当時の様子をよりリアルに体感してもらい、大森のまち歩き観光をより楽しんでもらうため、町並みの古地図をデジタル化し、現在の地図と合わせて見れるデジタルマップを作成した。より多くの観光客に見てもらえるように更なる周知広報を行う。		
3－① 体験・滞在型商品等の造成・販売促進事業 石見銀山遺跡または石見銀山遺跡に関連する文化資源や地域の魅力を観光客に伝え、周年以降の観光消費額の増加につなげる取り組みに対する補助事業を実施した。内容としては、（一社）石見銀山みらいコンソーシアムが実施する、龍源寺間歩の入場券販売所を移転し休憩・物販・ガイド予約の拠点とすることで、龍源寺間歩と周辺文化資源を一体的に見せる観光を促す事業に対し、高橋家や佐毘売山神社など周辺文化資源をまとめた地図・パンフレット・誘導看板作成などに係る費用の補助を行った。 また、R8年度に実施する予定の、石見銀山とその文化的景観エリアの価値（歴史・文化・自然・物語等）を活かした体験コンテンツ造成及び誘客・広報推進に係る事業への補助事業を検討した。		
4－② 大阪・関西万博を契機とした国内外観光客向け情報発信事業 大田市観光協会を中心として、山陰道開通により時間的距離の短縮をPRしたり、インバウンド向けの多言語デジタルパンフレットデータの作成（英語・繁体字）を行うなど、情報発信を実施した。		
5－② 史跡重点整備事業（最盛期生産エリア 石銀集落跡・本谷地区） 令和8年度に公開予定の石銀集落跡・本谷地区の見学道の整備を行った。		

⑤拠点施設の要件に関する取組状況

文化観光拠点施設名 要件	石見銀山世界遺産センター	いも代官ミュージアム（石見銀山資料館）
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介	観光庁直接事業である文化財多言語解説整備支援事業により、多言語化された解説文を展示等で活用している。	江戸幕府直轄の石見銀山御料の拠点となった歴史を解説するため、パネルや史資料等の展示を行っている。
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介	来館者が個人の端末でも検索等が行えるように、館内はフリーWi-Fiの環境を構築している。展示室内では、デジタルパネルに多言語化した動画やパネルデータを公開している。	現在、展示で活用しているデジタル技術はなし。
・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介	QRコードを読み取り端末に表示させるシステムを導入しており、11言語の翻訳文を整備している。QRコードは各展示ボードに掲示している。	現在、日本語のみでの展示となっている。 （公式ホームページは英語、韓国語、中国語（簡体・繁体）に多言語化している。）
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築	大田市及び指定管理者は、（一社）大田市観光協会（地域DMO）と連携しながら観光誘客を図っている。また、大田市観光協会及び大田市が事務局となり、多様な観光関連事業者が集まる大田市観光戦略会議では、大田市の観光についての議論や情報交換を行っている。	京都市大学人文科学研究所大学との石見銀山関連講座の開催、重要文化財熊谷家住宅をはじめとする指定管理を行う町内の文化施設と一体となった運営、出雲養護学校と遼摩分教室との連携、アーティストとのワークショップ共同企画等の連携を行った。
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析	石見銀山世界遺産センターでは利用者アンケートを実施している。また、大田市では、大田市観光入込客数調査、宿泊客数調査、島根県では、島根観光動態調査を実施しており、これらの調査結果等により、島根県や大田市、石見銀山世界遺産センターを取り巻く状況を把握している。	大田市では、大田市観光入込客数調査、宿泊客数調査、島根県では、島根観光動態調査を実施しており、これらの調査結果等により、島根県や大田市、いも代官ミュージアム（石見銀山資料館）を取り巻く状況を把握している。
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立	大田市、島根県、指定管理者（石見交通株式会社）による定期・不定期の協議により、数値目標の実績や改善点等について確認・共有を図っている。	大田市及び島根県、（一社）大田市観光協会（地域DMO）、大田商工会議所、銀の道商工会を官民で構成する文化観光推進協議会を組織し、地域計画（方針、KPIの設定）の策定等を行った。
文化観光拠点施設名 要件	龍源寺間歩	
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介	龍源寺間歩の入場券販売所を移転し休憩・物販・ガイド予約の拠点とすることで、龍源寺間歩と周辺文化資源を一体的に観光を促す事業に対し、高橋家や佐毘売山神社など周辺文化資源をまとめた地図・パンフレット・誘導看板作成などに係る費用の補助を行った。	
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介	令和8年度文化財多言語解説整備事業の採択に向けて、手法と内容の検討を行った。	
・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介	観光庁直接事業である多言語解説整備支援事業により制作した解説文を用いて、コンテンツを実装する予定である。	
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築	龍源寺間歩の指定管理者である（一社）石見銀山みらいコンソーシアムと連携し、龍源寺間歩周辺の観光満足度の向上を図った。	
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析	龍源寺間歩と周辺文化資源を一体的に見せる観光を促す事業とともに、民間事業の中で龍源寺間歩と周辺文化資源のみのガイドを試験的に行い、観光客にアンケート調査を行うなど、ニーズ把握・金額設定などの参考とした。	
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立	龍源寺間歩の指定管理者である（一社）石見銀山みらいコンソーシアムとの連携にあわせ、大田市観光振興課との密な連絡・協議を行い、数値目標や改善点の確認を行っている。	

⑥観光関係者（DMOなど）からの評価

評価者	評価内容
（一社）大田市観光協会	令和7年度においては、前年度からの継続協議に加え、一部の事業を実施した。 古地図と現在の地図を合わせた大森の町並みのデジタルマップや、インバウンド向けの多言語デジタルパンフレットデータの作成・活用により、現地での体験の魅力向上や、情報発信の充実が図られた。 また、周年以降の観光消費額の増加につなげる取組として、龍源寺間歩周辺域の魅力向上に資する各種事業が進んでおり、間歩坑道と周辺の銀山業ゆかりのスポットを巡るガイド企画等により、さらなる観光消費額の増加が期待される。 石見銀山遺跡は当市の代表的な観光地であり、来訪者の動向把握と分析、その内容を踏まえた形での情報発信や二次交通、受入環境の整備等を行うことが重要である。観光地域づくりの中核組織として、事業効果を最大限に発揮できるよう、引き続き関係団体と共に連携し進めていきたい。

⑦今後の改善の方向性

今後は、石見銀山遺跡と周辺地域の魅力をさらに高めるため、来訪者の動向把握と分析を継続し、その結果を踏まえて情報発信、二次交通、受入環境の改善を進めていくことが重要である。すでに、利用者アンケートや各種観光調査、デジタルマップや多言語パンフレットの整備、龍源寺間歩周辺の魅力向上や体験プログラムの検討などが進められており、これらの成果を着実に活用していく必要がある。
--